

花島小学校（統合校）について

I 花島小学校の開校の経緯について

1 旧花見川第四小・第五小の合意形成の経過

平成16年3月 小規模校21校名と統合にあたっての基本的な考え方を公表。

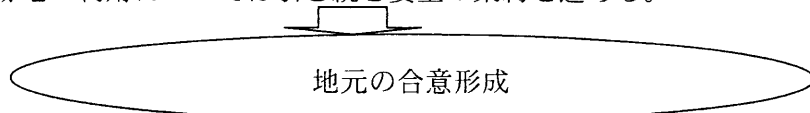
6月 統合候補5か所を選定し公表。保護者・地元代表・地元住民を対象に説明会を実施。

11月 花見川四小・五小学区の自治会・PTA保護者会・青少年育成委員会など地元代表による「地元代表の会」が設置され、5回にわたり協議を行う。

平成17年1月 5月 地元代表の会が統合の早期実現を求める要望書を提出。

<要望の主な内容>

- ・地元の意向を十分配慮した早期統合実現。
- ・校舎選定は安全を第一とし、優れた教育環境に整備。
- ・跡地の利用については引き続き要望の集約を進める。



2 決定事項

(1) 統合の時期は、平成18年4月1日とした。

ア 地元合意形成（要望）の機を的確に捉えて、可能な限り早期統合を図った。

イ 小規模校の課題について統合により早期に解消することが望まれていた。

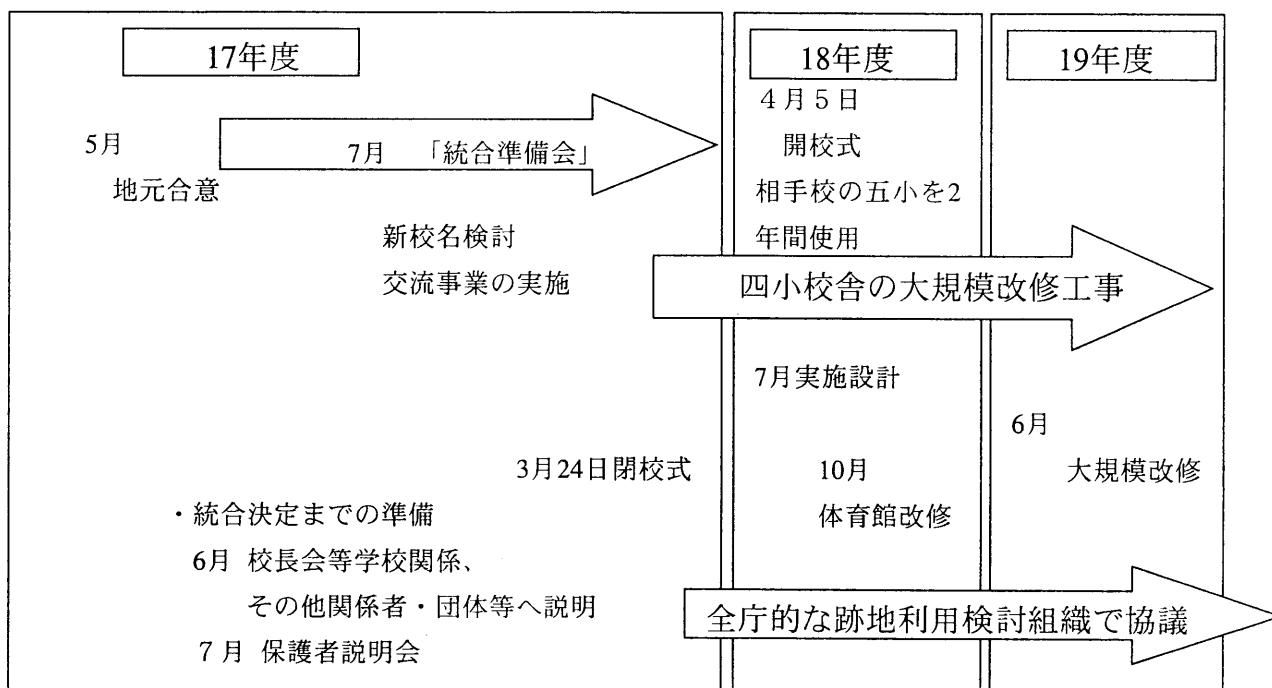
(2) 使用する校舎は、花見川第四小学校に決定し、大規模改修を実施した。

使用する校舎は将来に向けた教室数の確保、校舎形状、運動場の面積・形状など、教育活動環境により適している四小を使用することとし、統合校は新設校として設置されることからそれに相応しい改修工事を行った。

(3) 花見川第五小学校の跡地については、全庁的な検討組織を設置した。

地元自治会で出された跡地利用の要望を踏まえ、広く有効活用策を検討した。

3 スケジュール（18年度統合、20年度リニューアル校舎）



Ⅱ 花島小学校統合準備会について

1 開催状況

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
平成17年 7月12日	平成17年 10月14日	平成17年 12月22日	平成18年 2月13日	平成18年 3月6日

2 構成

- (1) PTA・保護者会代表
- (2) 教職員代表
- (3) 学校評議員代表
- (4) 教育委員会関係者

3 検討事項

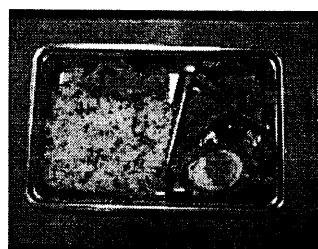
- (1) 統合へ向けての交流事業や記念行事
- (2) 新しい学校の校名・校歌・校章など
- (3) 教育環境整備や安全対策
- (4) その他統合に関わる必要事項

4 検討の経緯

主な業務	概 要	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
統合準備会	統合準備会を設置し、検討。	合意		1 回			2 回		3 回		4 回	5 回
①学校名の選定	アンケート調査と学校名選定。			調査			複数候補決定	校名検討委員会			定例教育委員会	
②交流事業の実施	9月より交流事業を実施。				計画	行事	調整	行事	行事	行事		閉校
③記念行事の計画と実施	記念行事を実施し雰囲気づくり。						計画	記念絵画展、作文等HPの開設等				行事
④学校運営の統合	教育課程や行事、校内分掌の調整。					説明	次年度教育課程、行事、校内分掌、特色ある教育活動等の調整					

5 交流事業について

お弁当給食（たてわり班で、花島公園に行っ
てなかよくお弁当を食べました）



事業名	実施時期	事業の概要
夏休み作品展	9月	お互いの作品を見合う。
体育交流（5年）	10月21日	作戦を工夫してリレーを楽しむ。
陸上記録会	11月8日	陸上選手による記録会を行う。
ヤゴの学習会	11月15日	五小の2年生が四小学習会に参加。
菜の花の種まき	11月17日	花見川沿いに種まき。
芸術鑑賞会	11月17日	三小も含め三校で舞台芸術を鑑賞。
お弁当給食	11月9日 11月21日	両校の6年がリーダー会議を行う。 たてわり班で会食、遊び。
球技交流	12月9日	練習試合を行う。
花の子わいわい祭り （花見川四小）	12月14日	五小の児童も見学、参加。
校内書初め展	1月12～19日	お互いの作品を鑑賞
教職員交流	9月、11月 2月 3月18日 22日	交流計画の検討、備品の確認等。 備品再確認、引越し作業の打合せ 2回の学年ごとの打合せを持ち、来年度の 学級編制を行う。

5 学年交流（体育の学習で、リレー競技を楽しみました）



陸上記録会（陸上大会の選手が、7つの種目で記録を競いました）



Ⅲ 統合前と統合後の児童数・学級数・教員数について

	花見川第四小学校 (H17)			花見川第五小学校 (H17)			花島小学校 (H18)		
	児童数	学級数	平均	児童数	学級数	平均	児童数	学級数	平均
1 年	31	1	31	24	1	24	42	2	21
2 年	29	1	29	38	1	38	55	2	28
3 年	26	1	26	31	1	31	64	2	32
4 年	31	1	31	29	1	29	57	2	29
5 年	41	2	21	34	1	34	57	2	29
6 年	42	2	21	30	1	30	74	2	37
全学年	200	8	25	186	6	31	349	12	29
千葉県の 一般的な 配置基準 によるもの	校長1 教頭1 養護教諭1	教務主任1 学級担任8		校長1 教頭1 養護教諭1	教務主任1 学級担任6		校長1 教頭1 養護教諭1	教務主任1人 学級担任12人	
	3人	9人		3人	7人		3人	13人	
特別な 加配				少人数 加配教員		2人	統合増置教員		2人

Ⅳ 花島小学校改修工事について

1 内容

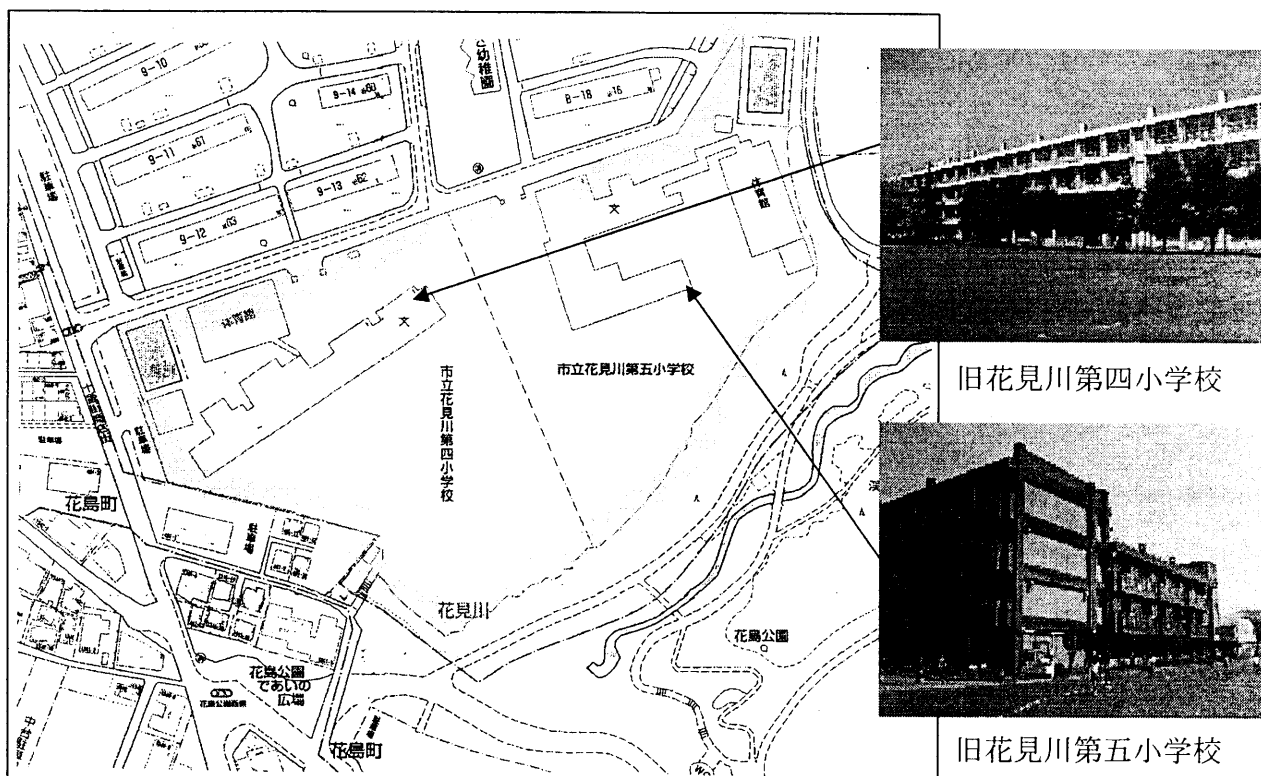
体育館	外壁・内部塗装、建具改修、屋根張替え、アリーナ床張替え、ステージ塗装
プール	プールサイド塗装、モルタル劣化部補修、コンクリートブロック壁塗装

校舎	床と天井の張替え、特別教室の改修、手洗い場やトイレの改修 エレベータ設置、メモリアルルーム整備
----	--

2 旧花見川第四小学校と花見川第五小学校の校舎の比較

	花見川四小	花見川五小
建設年 経年	昭和48年 32年間	昭和51年 29年間
児童数ピーク	1,093人 (53年)	948人 (54年)
児童学級数	200人 (8学級)	186人 (6学級)
分離について	花見川第二小学校より分離	花見川第三小学校より分離
校地面積	18,707㎡	18,780㎡
校舎面積	5,086㎡	4,502㎡
体育館	769㎡	748㎡
運動場面積	9,518㎡ (+南斜面地1,122㎡)	6,435㎡ (+南斜面地3,597㎡)
実教室数	26室	18室
校庭の形状	長方形で活用しやすい	トラックが確保しにくい

3 旧花見川第四小学校と花見川第五小学校の形状



4 リニューアルされた校舎

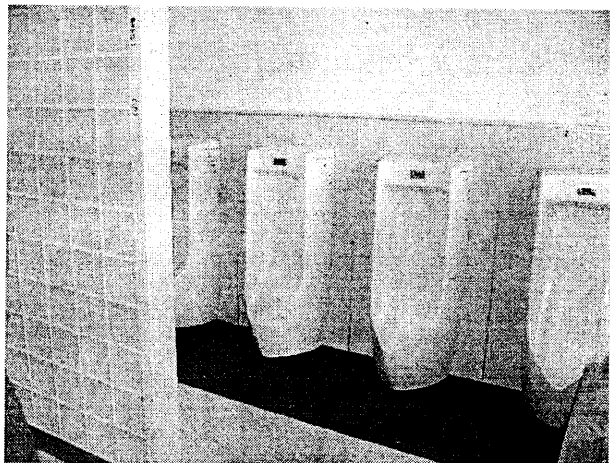
校舎全景



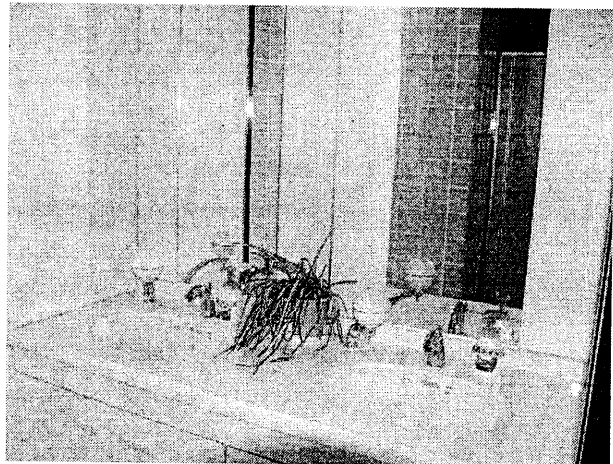
職員玄関



トイレ



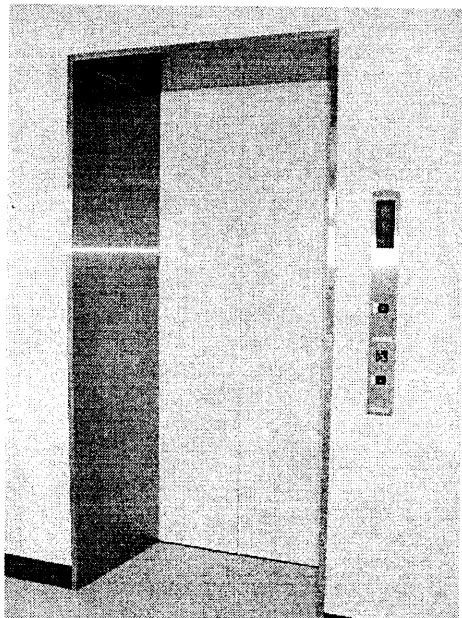
洗面所



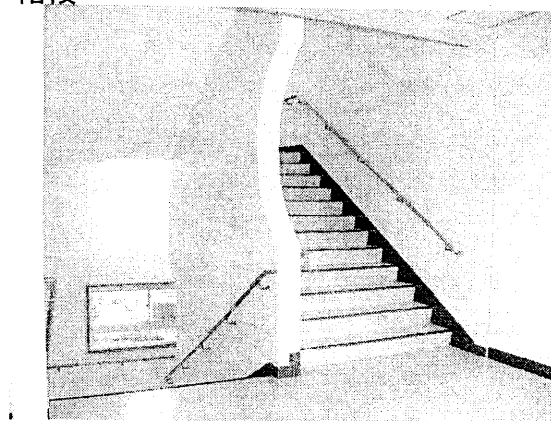
低学年用読書室



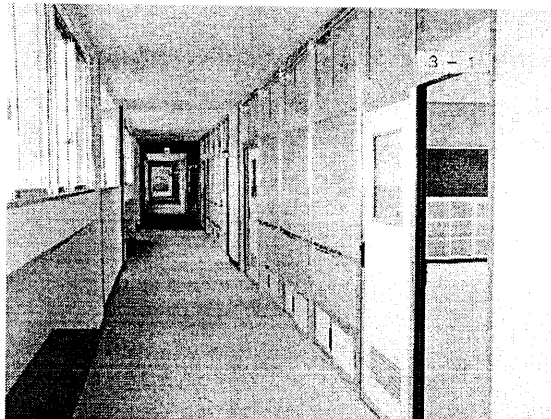
エレベーター



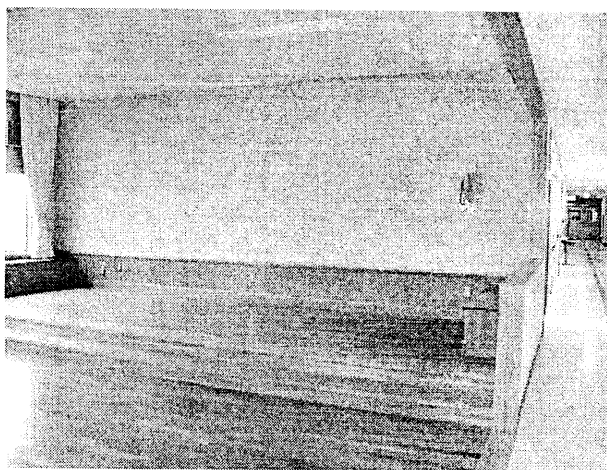
階段



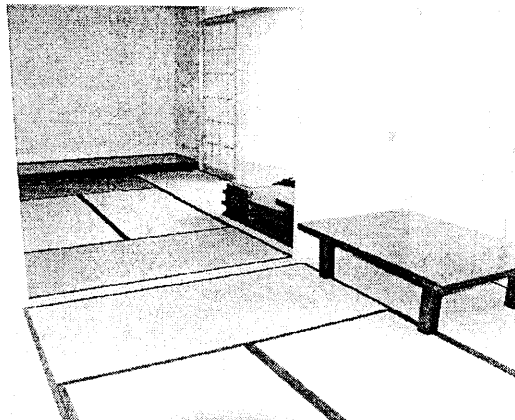
廊下



スカイホール



和室



給食室



下駄箱



V 適正規模化に伴う変化について

	メリット	デメリット	花島小学校の実際
人間関係面	○子ども同士、お互いが顔なじみで、校内ではまとまりやすく、仲間の性格をよく理解し、生活することができる。 ○ほとんどの教員が、すべての子どもたちと関わることができ、アットホームで和やかな雰囲気環境ができる。	○クラス替えができず、入学から卒業まで同一集団で過ごすため、 ・子どもたち同士のかかわりや競い合いの機会が限られ、社会性が育ちにくい。 ・子ども同士、保護者同士の人間関係や評価が固定化しやすく、いったん人間関係がこじれると、修復が難しい。 ○先生の眼のゆきとどいた生活に慣れてしまい、多人数の集団に加わって行動しなければならない場面で、内弁慶になりがちである。	○子どもたちの人間関係が広がり、友人が増えたと言っている子どもが多い。 ○統合前の子どもたちは、(算数はA君が1番、かけこはBさんが1番といった具合に)自分の位置関係が固定化され、活動への取り組みや自分を向上させようとする意欲を持ちにくい状況があった。統合後は、様々なタイプの仲間と知り合う中で、向上心が芽生えてきた。 ○陸上大会や球技大会等対外的な活動について、団結意識が芽生えた。また、良い意味での競争意識が生まれ、互いに切磋琢磨して、強くなろうとがんばった。 ○人間関係が広がることにより、相手を意識し、統合前に比べ、自制できるようになった子どもが見られた。

	メリット	デメリット	花島小学校の実際
教育指導面	○時間をかけた丁寧な指導ができ、子どもたちの発表の機会が多くなる。(算数の九九やたて笛の指導など、くり返し練習する学習には有効である。) ○集団としてまとまりやすい。 ○運動会や各種発表会などの行事で、子どもたちがそれぞれ何らかの役割を分担し、ひとりあたりの出場・出演回数も多いので、行事への参加意識が高まる。 ○運動場・体育館・プールなどの施設、理科教室や音楽室などの特別教室の活用、及び運動用具・教材・教具の利用が十分にできる。	○教師への依存度が強くなり、学習等への取り組みが受身になりがちである。また、多様な意見を取り入れて自分の考えを深める学習ができにくく、得意な子どもの考え方に全体が引っぱられやすい。 ○いくつかの班に分けて学び合う活動は、学習班の数に限りがあるので、他の班との比較があまりできない。 ○行事は、全体として盛りあがりにかける。高学年は、準備・出場・後片付けと忙しく負担が大きい。また、集団演技や団体競技もできにくい。合奏・合唱の編制規模や劇等の出演者数も縮小せざるを得ない。 ○体育では、サッカーなどの集団ゲームがミニゲームにならざるを得ず、チーム数が少なく、相手も同じなので意欲をなくしがちである。また、音楽でも、多人数による大合奏が難しい。	○多様な学習形態を展開することができるようになったので、学習活動が活発化し、子どもたちの向上心が高まってきている。 ○教員の数に余裕が生じたので、少人数指導が行えるようになった。 ○統合前は、体育の集団ゲームや音楽の合奏などがしづらかったが、統合後は、状況に応じて様々なグループに分けて活動を行うことができるようになり、意欲的に活動する子どもが増えた。
学校運営面	○教職員間での意思の疎通が図られやすく、方針等がまとまりやすい。 ○行事の運営で小回りが利くため、多様な活動が計画できる。	○小学校では、専科教員を配置できない。中学校では、担当一人で全学年を教えたり、免許外の教科を担当するケースがある。 ○教職員一人あたりの校務分掌の数が多くなり、負担が大きい。出張等で学校を離れて行う業務に対応できないことがある。学年・教科運営を若手であっても一人に任せるしかなく、教職員同士の相談や切磋琢磨ができない。 ○行事において、立案や計画を立てる教職員に限られ、負担が大きく、マンネリ化が生れやすい。ピアノ伴奏担当にも苦慮する。	○統合前は、教員個々の校務分掌の負担が大きかった。 ○若手教員が多かったが、統合前は、若手であっても学年を一人に任せざるを得ず、若手教員を育てるのが難しかった。統合後は、指導力向上のため、若手教員がベテラン教員の授業を参観したり、話し合ったりする機会を増やすことができた。 ○出張等の補欠には、教務主任が入らざるを得なかった。 ○旧花見川第四小では、少人数指導をするための教員がいなかったため、校長・教頭・教務主任が、(不定期的に)指導することがあった。